

家電やOA機器、自動車など多彩な製品の再資源化に取り組むリサイクル会社で、サーキュラーエコノミー（循環経済）の技術開発を担当する。解体現場の声を拾いながら、作業の効率アップやコスト削減策を考え、実行に移している。

2月には展示会「サーキュラー・エコノミーエキスポ」（東京）にプロジェクトチームの一員として参加し、大手家電メーカーの担当者らに多岐にわたるリサイクル事業を説明した。わが社の展示には3日間で約千人が来場し、循環経済の注目度の高さを再認識する場になった。訪れた人たちに対応するための勉強会やパネルの作成といった準備

平林金属（岡山市）でリサイクルの推進に取り組む

森香央理さん（25）

期間も含め、忙しくも充実した時間を過ごせた。ステップアップにつながると思う。出身は和歌山市。2022年に入社後、御津第1工場（岡山市北区御津高津）のOA機



サーキュラー・エコノミーエキスポで来場者に対応する森さん

仕事、ソフトで恩返し

器解体ラインの勤務を経て、約2年前に現在の部署に異動した。その経験を踏まえて、今春からはリサイクルに乗り出す企業への営業も任される予定で、やる気が増している。何事にも前向きな姿勢は、中学1年から始めたソフトボールが育んでくれた。競技を続けるため、関西大（大阪府）時代のコーチの勧めもあって入社し、昨年から日本リーグを戦う女子部の主将としてチームを引っ張っている。毎試合スタンドに駆けつけ、声援で後押ししてくれる同僚や会社で恩返しすることがモチベーション。仕事でもソフトでも「好成績」を収めたい。（橋本直樹）

＝ 随時掲載